

## 一般演題4-9 潜水事故の傾向について

野澤 徹<sup>1, 2)</sup> 小松富士夫<sup>1)</sup> 加賀谷尚之<sup>1)</sup>

- 1) (一財)海洋レジャー安全・振興協会
- 2) 水中科学研究所

(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会では、海上保安庁から事故データの提供を受け、毎年「潜水事故の分析」を発行している。近年の潜水事故の傾向について、特徴的な事実を示すことにしたい。

ダイビングでの事故は、重大な結果に結びつく。実際、平成16年から平成25年の10年間平均で毎年約50名の事故者があり、そのうち死亡・行方不明は約16名で、死亡・不明が占める割合は、34.9%に上る。平成25年はレジャーのみで見ると全体で51名、死亡・不明者は18名(全体の35.3%)であった。海上保安庁の発表では平成26年は、平成25年と比較すると減少したが、単年度変化である可能性もある。

近年は、中高年ダイバーの事故の割合が多い。平成25年の事故では40歳以上のダイバーが占める割合は、67.7%で、死亡・行方不明者に限れば、83.3%であった。男女比で見ると、男性が死亡・行方不明に占める割合は極めて大きく、全体の77.7%に上る。10年間で見ると、男性の割合はほぼ7割強である。この傾向は経験年数に係わらない。

事故の原因では、「不明」とするものが最も多く全体の約1/3を占める。また、「未熟・マスク浸水、海水誤飲、パニック」といった、潜水技術を十分に習得していないものや水中に慣れていないものが24.1%を占める。さらに、「病気・体調不良」と思われるもの16.1%と続く。中高年の事故の原因として、欧米では心臓血管系疾患が指摘されているが、我が国でもこうした傾向が考えられる。

ダイビングを安全に楽しむには、事故の予防が最も重要になる。今回の事故原因の分析から、ダイビング技術の未熟・水環境への慣熟度の不足と、ダイバーが持っていた疾病という二つの問題が指摘できよう。また、特に死亡事故に男性が多い事実も注目に値する。

今後もダイビング事故の原因をさらに究明することで、学会や業界と協力して事故を未然に防ぎ、安全

にダイビングを楽しむための情報を提供していきたい。なお、詳細については、「平成25年 潜水事故の分析」をご覧ください。

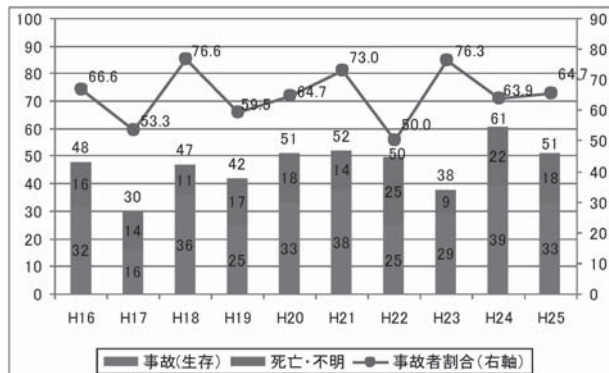


図1 10年間の事故の推移

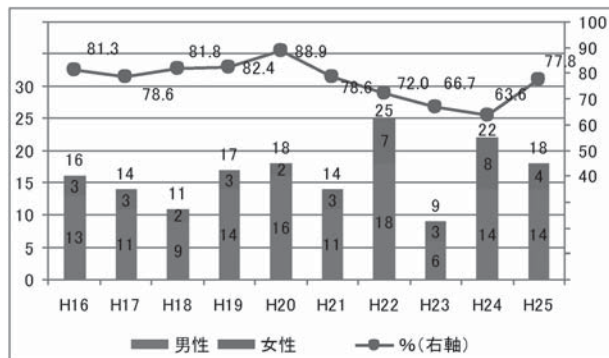


図2 10年間の死亡事故の推移 (折線は男性割合)